

# 想う がままに

## 人権を守る自治体の長として 判決確定させた箕面市長

本誌編集委員 小寺山康雄

昨年11月30日、大阪高裁は住基ネットからの離脱を求め控訴していた大阪府吹田、守口、箕面三市の住民4人に対して、「拒絶している住民への適用は憲法13条違反」とする画期的な判決を出した。

竹中省吾裁判長は神戸地裁判事だった00年1月に、「尼崎公害訴訟」で自動車排気ガスと健康被害との因果関係を認定し、汚染物質の排出差し止めを命じる判決を出している。司法の反動化、行政権力へのすりよりが限りなく進行する中で、まことに得がたい正義の裁判官だった。その裁判官が判決言

い渡しから旬日を経ずして「自殺」したのであるから、不可解な死に方であると誰もが思った。ところがスキャンダル大好きのマスコミなのに、口裏を合わせたように黙り込んでいるのはまったく不可解ではないか。この国のジャーナリズムは地に墮ちたといわざるを得ない。

竹中裁判長の命がけの判決に応えたのは、箕面市長・藤沢純一であった。藤沢市長は12月7日、市議会本会議で「住基ネットからの離脱を望んでいる市民にまで強要することは憲法違反である」との判決を重く受け止め、最高裁

判決に委ねるのではなく、人権を守る立場の自治体の長として、この判決を確定させる」と、明快に言い切った。市民派市長の面目躍如たるものがある。無念の死に追いやられた竹中裁判長とそこご遺族にとって藤沢市長の英断はなによりの供養となったであろう。

### 自公民とマスコミ一体の逆襲

藤沢市長の英断に対して市議会多数派（自公民）は猛然と反発した。「マスコミ向けのパフォーマンス。議会軽視、身勝手」「最高裁で逆転すればどうするの」「システム修正に数千万円

かかる。無駄遣い」。

住民自治の先頭に立つべき市議会が、お上最高裁のご意向こそ大事というのだから見下げ果てた輩である。「数千万円」はガセネタにきまつているが、人権よりゼニカネとは利権漁りのやつらしい。やつらはすでに昨年3月に藤沢市長に対して辞職勧告を強引に決議したが、法的拘束力がないので、藤沢市長に「ではまた、6月議会でお会いしましょう」とやられた。腹の虫が収まらないやつらは12月に不信任決議を動議した。しかし、これまた14対10で不採択になった(採択には3分の2以上の出席と4分の3以上の賛成が必要。現有25人定数では19人以上)。

マスコミはといえば、産経、読売が藤沢潰しに狂奔した。助役と収入役はいまだに不在。数々の選挙公約を破棄。市長は身勝手「(産経)。「危険性過大視の高裁判決。選択性の横浜市も全員参加に改めた。住基ネットによる行政の効率化が進んでいる。パスポートの発給、年金受給者の現況確認など利便性が高い。個人離脱はコスト増(読売)」。助役と収入役の2年半もの不在は異常であるが、理由らしい理由なく嫌がらせだけで、市長提案を認めてこなかった議会の責任である。予算を伴う公約の実現が進まないのは、藤沢市長の公約は市民に歓迎されており、それを認めることは自公民の敗北になるからだ。それでも藤沢市長は情報公開の徹底、政策決定過程の透明化と政策形成への市民参加の推進、市長退職金の大幅削減など、市長の裁量でできることは可能な限りやってきた。住基ネットの選択性は藤沢市長の公約だったのだから、公約履行を迫るのであれば、産経は議会の理不尽にして身勝手なふるまいこそ批判すべきであろう。

住基カード普及率はわずか0.7%。システム構築に要した費用600億円、維持費は担当職員の人件費を含めずとも200億円。鳴り物入りのインターネットによるパスポート発給費用は一冊1600万円。これほど効率悪く利便性低く、無駄遣いのシステムも珍しい。導入時93件だった国の利用事務は293件に拡大し、国は今後も勝手に増やし続けるだろう。総背番号制による国民管理に向けて着々と布石を打っている国にとって、いくら金がかかろうと後戻りできない事業なのである。読売はそのことを十分承知して詭弁を弄しているのだ。

### ぶ厚い自立・自治の市民層

高裁判決と市長の英断を歓迎支持する集會に千人をこえる市民が集まり、藤沢市長も招かれた。箕面市民は議者とマスコミのレベルをはるかに超えた地平で、国と自治体、国家と個人の関係をめぐって議論し、自立・自治の街づくり、市民相互の自立的にして緊密な関係を築きつつあるのである。

藤沢は92年の市議選に初挑戦し、見事6位で当選した。あと1年で公務員(吹田市勤務)年金受給資格がとれ、退職金も優遇されるというのに、予定していた市民運動の仲間が日和つたので、やむをえず立候補した。96年2期目には女性二人を誘って3人とも当選し、藤沢は箕面市議選始まって以来の高得票でトップ当選した。

00年の市長選立候補も、予定していた人に逃げられたからである。今度もあと一期で取得できる議員年金をパーにしてしまった。金銭に恬淡としていると言えばカッコいいが、教師をしているつれあいの気風よさに甘えただけ、といえれば筆者にとって天に唾することになるが(苦笑)。このときは千票差で惜敗したが、藤沢は次は勝てると自信を持った。

そして04年8月、現職は自公民、商工会、医師会、市役所、教組、市職と、街ぐるみ、役所ぐるみ、宗教ぐるみ、組

織ぐるみの体制を布き、どれだけ圧勝するかが課題と嘯いた。げんに開票が始まるとマスコミは現職事務所を詰めかけ、藤沢事務所には2、3人の記者が所在無げにたむろするだけだった。それがなんと千票差で今度は勝つたのだ。しかも96年以來の仲間である現職2人に新人3人、あわせて5人が市民派として市議に当選した。ちなみに市議会勢力比は(カッコ内は得票率)自民4(16%)、公3(12%)、民3(12%)、共4(16%)、保守系無所属6(22%)に対して市民派5(20%)である。藤沢市民派市長の誕生は一時的ブームやフロックではないことがこれでわかるだろう。

92年市議選初挑戦以來15年間、藤沢は100号、200万部をこえるニュースを手配りし、行政と議会の情報、自分の活動を克明に報告してきた。街づくり、エコロジー、高齢者のための三つのNPO活動を通じて議会にとどまらないコミュニティ活動を

やってきた。市長就任から二年半たつが、市議会の傍聴はいまだに数十人を下回ることはない。ホームページへのアクセスはひきもきらない。藤沢と市民派議員の活動も相まって、箕面市の自立・自治の市民層は全国的にも有数のぶ厚さを誇っているのである。

住基ネットは東京都杉並区が選択性を求めて東京高裁に控訴中。そして東京都国立市と福島県矢祭町は完全切断している。本論の趣旨からははずれが、矢祭町の町づくりはずばらしい。平成大合併を敢然と拒否し、住基ネットも拒否した。国に頼らない、国の言いなりにならない町づくりをすすめているのだ。町長はどんな人か興味はつきないが、本誌もこむずかしいことばかり言っていないで取材したらどうか。醜い国ではあるが、美しい人々はマスコミが目を向けないうところで、月見草のようにつつましく、しかししたたかに存在するものである。